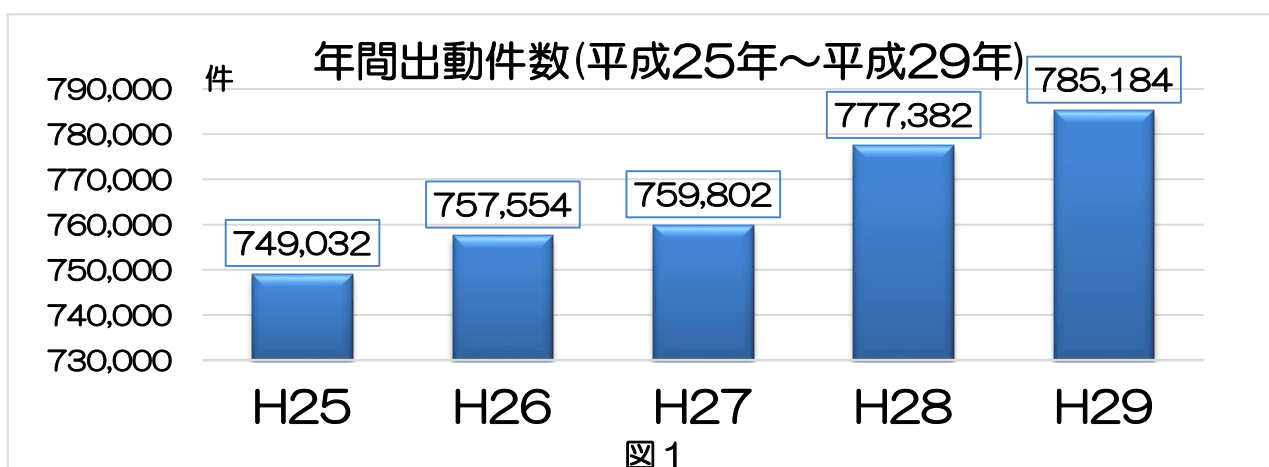
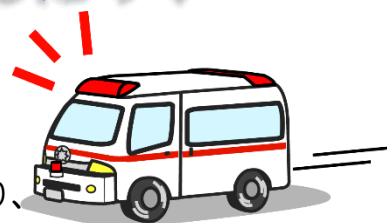


新年度スタート！

正しい救急車の利用方法と応急手当を知ろう

《増え続ける救急出動》

東京消防庁における救急出動件数は、依然として年々増加し続け、平成29年中の救急出動件数は785,184件と、救急業務を開始した昭和11年以来、過去最高の件数となり、今後さらに増え続けると予想されます（図1参照）。



《救急隊の到着時間》

東京消防庁では、119番通報で救急車の要請を受けると、対応可能な最も近くの救急車を出動させています。救急要請が増加すると近くの救急車が全て出動中となり、遠くから救急車が出動することで、到着までに時間が必要となります。

このため、救急車が出動してから要請場所に到着するまでの平均時間は長くなる傾向にあり、平成29年中は7分19秒となっています。救命曲線を見ると依然として傷病者への影響が危惧されています（図2、図3参照）。

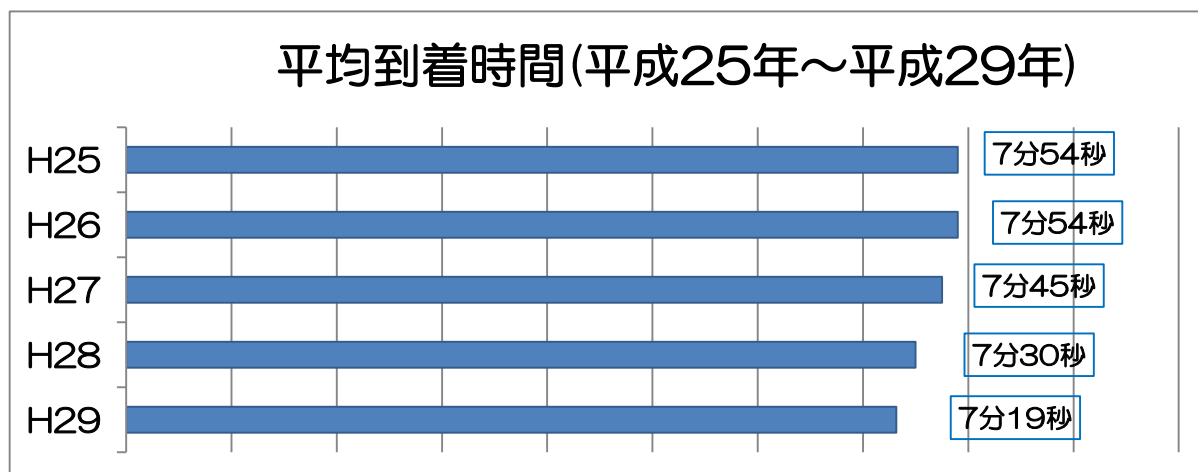
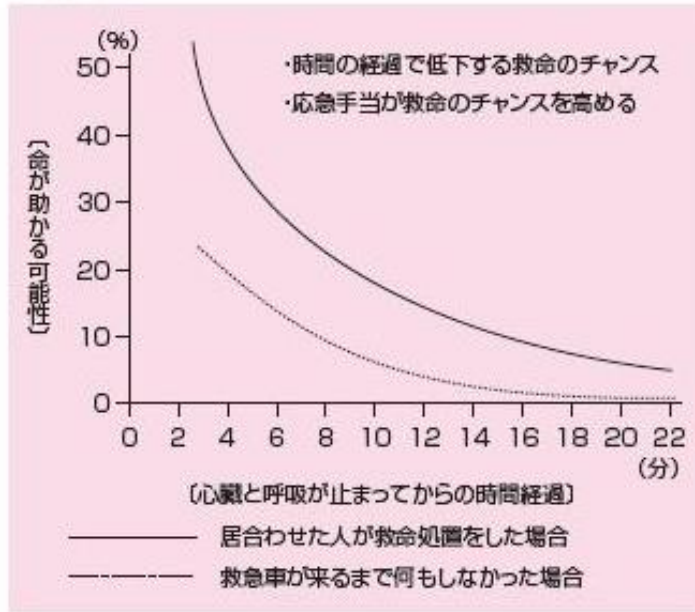


図2

救命曲線



(Holmberg M ; Effect of bystander cardiopulmonary resuscitation in out-of-hospital cardiac arrest patients in Sweden. Resuscitation 2000 ; 47 (1)59-70. から一部改変)

図3

《軽症者の割合》

救急隊が搬送した方のうち、入院を必要としない軽症の割合は50%以上を占めています。軽症者の搬送人数は平成25年から増加傾向であり、平成29年は54.1%と依然として多くを占めています（図4参照）。

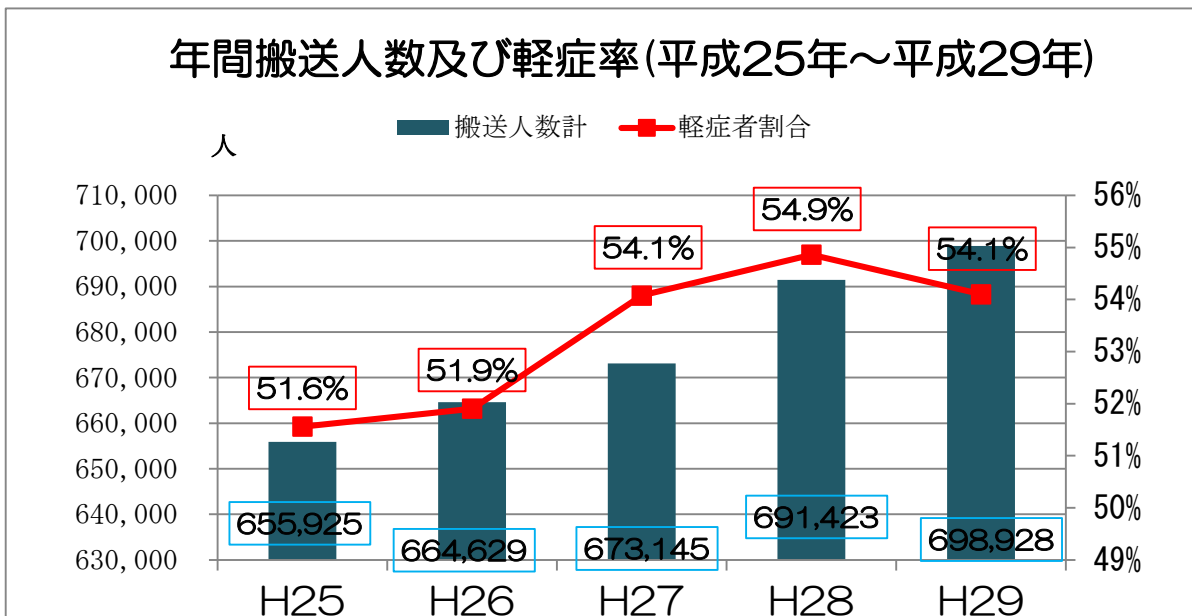
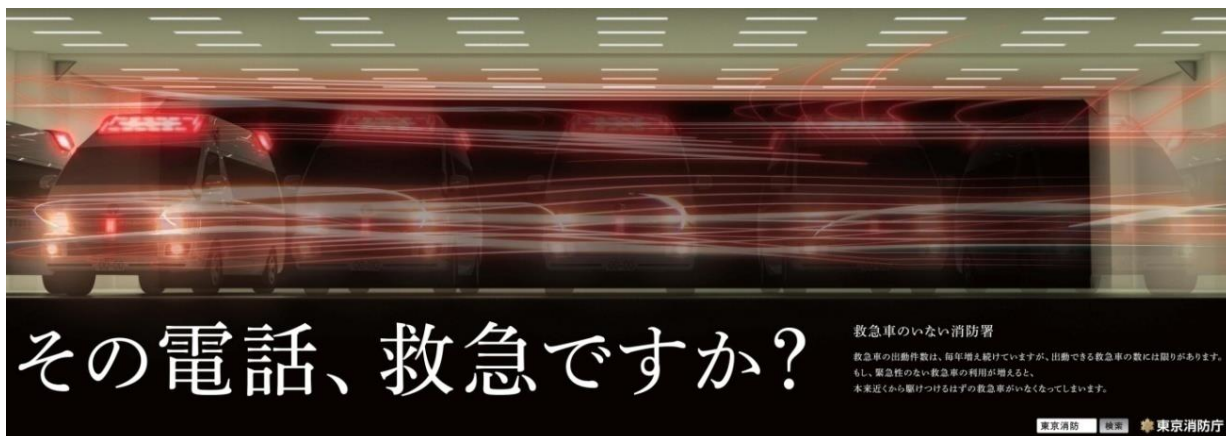


図4

その電話、救急ですか？

アンケート調査の結果では、救急車を要請する理由として、「生命の危険があると思った」など、緊急性がある理由が多い反面、「交通手段がなかった」など緊急ではない理由も見受けられました。このような状況が進むと、救急車の到着が更に延び、救えるはずの命が救えなくなる危険性が高まります。

そして、もしかしたら、その一人があなたかもしれないのです。



救急車の数には限りがあります

「あなたやあなたの大切な人が倒れた時、救急車を呼んだのに、なかなか来ない・・・。」その時にはじめて気づくのでは、間に合いません。

その電話、救急ですか？今一度考えてみませんか

救急車は都民が共有する貴重な財産です。その限りある貴重な財産を、本当に必要な人が必要なときに利用できるよう、救急車の適正な利用に心がけましょう。

救急搬送トリアージについて

救急隊は、傷病者に緊急性が認められないと判断された人には、同意を得て自らの受診をお願いする「救急搬送トリアージ」を実施しています。救急隊が緊急性の高い傷病者に対して、迅速かつ的確に対応していくためご理解とご協力をお願いします。

このような場合は、対象となる可能性があります。

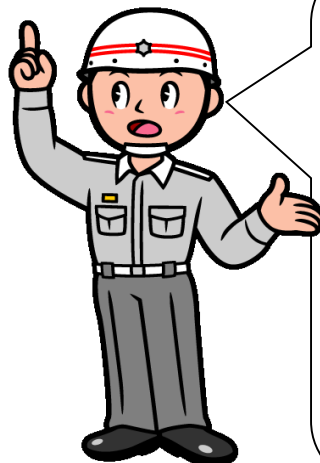
- 手や足の切り傷、擦り傷
- 手や足のやけど
- 耳や鼻の異物
- 鼻出血
- 皮膚の発赤、かゆみ
- 眠れない、不安、さみしい



〈やけど〉



〈鼻出血〉



緊急性が認められない場合自己受診をお願いしております。

（必要に応じ、診療可能な救急医療機関、東京民間救急コールセンターや東京消防庁救急相談センター等をご案内します。）